

ありがとうございます運動について

質問（星雅人議員）教育委員会及び各学校では、四月からありますが、その取り組みの趣旨、内容について伺います。

答弁（教育長）人間には「愛さりたい」「受け入れられたい」「認められたい」という欲求があり、これを自己重要感ととらえ、これを高めることが子供たちに必要ではないかとの考えから、新たな教育の重点として位置づけております。その一つの



中一ギャップ解消について熱心に耳を傾ける保護者

取り組みがありがとう運動であります。

教育委員会では、「ありがとう」の言葉を通し、自分の行為が人のためになっていくという思いを持ち、周囲の働きかけが自分のためであると感謝する思いを持ち、自己重要感を高めることにつながると考えております。

本年度は、次の五つに取り組んでいきます。一点目は、ありがとう運動の趣旨を教職員に周知

中一ギャップへの対応について

質問（井上泰弘議員）中学校に入学後、勉強や生活環境の変化になじめず、中一ギャップと言われる不登校やいじめ問題にどのように対応しているか伺います。

答弁（教育長）教育委員会としては、中一ギャップ解消のため、平成二十年度より中学校区を単位とした小中一貫連携教育について、研究学校を指定しながら実施しております。

今年度は、黒羽中学校区を研

究学校に指定して、次の代表的な三点の取り組みを実践いたします。

一点目は、小中合同の研究組織づくりであります。義務教育九年間という長いスパンの中で、情報を共有しながら、系統的・計画的な指導過程のもと、日々の教育活動が行われることを目的としております。

二点目は、臨床心理の資格を持ったスクールカウンセラーの派遣事業であります。これまで

も不登校対策やいじめ防止などに効果を上げておりましたが、中学校区にある小学校へも派遣することにより、児童はもとより、家庭支援を含めた早期のカウンセリングを行い、これまで以上に一貫した手厚い支援が可能になっております。

三点目は、小中学校が合同で小中連携を意識した学校だよりを保護者や地域に発信していきます。それにより児童生徒だけではなく、保護者及び地域の方々も、小学校から中学校へのスムーズな接続や連携の意識が高まるものと考えております。

するための講演会の実施であります。二点目は、各学校の実情に応じたありがとう運動の全校実施であります。三点目は、モデル地区を今年度湯津上地区に指定し、その取り組みを教育委員会がリーフレットにまとめ、市内全体に紹介する予定であります。四点目は、教育委員会各課におけるありがとう運動の実施であります。各課が課の業務に応じたありがとう運動を進めております。最後の五点目は、各学校等におけるのぼり旗の掲示や市のホームページに「ありがとう通信」を掲載して、広報活動を実施いたします。



のぼり旗により、ありがとう運動を広めていきます